



認証番号0005412

エコアクション21



環境活動レポート

2017年度

期間2017年11月～2018年10月の実績報告

2018年11月



きれいな環境づくりのお手伝いをします



大分環境プ라이어有限公司

目 次

	(ページ)
1. 環境方針	1
2. 事業概要	2～6
許可の内容	
施設・設備等の状況	
処理実績	
推進組織図	
廃棄物処分実績	
処理先フロー	
3. 主要な環境活動計画の内容	7
4. 環境活動の目標と取組結果	8～12
環境活動の目標と取組結果	
環境活動の取組結果	
環境教育の様子1	
環境教育の様子2	
環境への取組みの様子	
5. 環境活動の取組み結果の評価	13～15
6. 代表者による全体の評価と見直し	15
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	15

大分環境プ라이어有限公司 環境方針

環境理念

私たちは、地球や地域の環境に配慮した環境経営に取り組んでいく事が環境の業に携わる業者としての責務と考え、社員全員がこの環境方針を理解し、廃棄物の適正処理をはじめ、省資源、省エネルギー、地域環境保全などの活動を通じて、環境コミュニケーションによる人間成長、地球環境にやさしい事業者を目指す事をここに誓約致します。

行動指針

事業活動をととして「きれいな環境づくりのお手伝いをします。」

環境方針

事業活動において環境に与える負荷を低減する為に、以下の環境活動に取組みます。

- 1 事業活動における各種環境関連法規を遵守します。
- 2 社員一人一人が使用量削減に向けて、燃料管理・PDCAを積極的に実践します。
- 3 廃棄物削減の為に分別リサイクルと自社でのマテリアルリサイクル処理を行います。
- 4 事務所、処理施設における電気使用量の削減に努めます。
- 5 上水道、地下水資源の節水の取組みと作業場における雨水の有効活用。
- 6 事業所周辺における地域環境保全活動を当社の重点活動として取組み、地域社会の環境美化に貢献します。
- 7 環境にやさしい物品のグリーン購入を積極的に実践します。
- 8 当社の環境への取組みをまとめた「環境活動レポート」をより多くの方々へ知っていただく為にホームページをはじめ、日々の事業活動で広く公開して行きます。
- 9 環境マネジメントシステムの活動を通して、更なる「会社」と「人」の質の向上に努めます。

2009年 8月 1日制定
2010年 11月 1日改定
2011年 11月 1日改定
2013年 11月 1日改定
2016年 11月 1日改定

大分県大分市大字大分5001番地
大分環境プ라이어有限公司
代表取締役 後 藤 雅 彦

2. 事業概要

- | | | | |
|-------------------------|---|---|--|
| 1) 事業者名及び
代 表 者 | 大分環境プライヤー有限会社
代 表 取 締 役 後 藤 雅 彦 | | |
| 2) 法人設立年月日 | 1993年 11月 1日 | | |
| 3) 所 在 地 | 〒870-0843
(本社) 大分県大分市大字大分5001番地 | | |
| 4) 環境管理責任者
及 び 事 務 局 | 環境管理責任者
E A 21 事 務 局 | 奥 田 宏
生 野 久 美 子 | |
| 5) 連 絡 先 | 連 絡 担 当 者
T E L :

F A X :
E - m a i l :
ホームページ: | 奥 田 宏
097-544-0053
097-549-1300
097-549-1310
pliers@apricot.ocn.ne.jp
http://www.oita-k-plier.com/ | |
| 6) 事 業 内 容 | 本 社 | 大分市大字大分5001番地
経理・総務 | |
| | 賀 来 事 業 所 | 大分市大字賀来中尾9-1
一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬
産業廃棄物の中間処理
(選別施設・圧縮施設) | |
| | 津 守 事 業 所 | 大分市大字津守字礪場
一般廃棄物 民間委託業務
産業廃棄物 中間処理
(破碎施設) | |
| | 元 町 事 業 所 | 大分市大字大分5001番地
一般廃棄物 民間委託業務 | |
| 7) 事 業 規 模 | 資 本 金 | 5百万円 | |
| | 従 業 員 | 32名 (2017年度) | |
| | 売 上 高 | 150百万円 (2017年度) | |
| | 床 面 積 | 49.22m ² (賀来) 10.4625m ² (津守) | |
| | | 220m ² (本社) 16.25m ² (元町) | |
| | 敷 地 面 積 | 1,272m ² (賀来) 642m ² (津守) | |
| | | 919m ² (本社・元町) | |

8) 事業年度

11月～翌10月

9) 優良性判断に係る情報公開

ア) 許可の内容

事業系区分	許可区域	年月日		許可項目	許可番号
一般廃棄物 収集運搬業 (事業系ごみ)	大分市	許可年月日	2018・4・1	事業系ごみ	5841
		有効年月日	2020・3・31		
		許可年月日	2019・4・1	特定家庭用 機器廃棄物	4995
		有効年月日	2021・3・31		
	由布市	許可年月日	2019・4・1	事業系ごみ	3
		有効年月日	2021・3・31		
	別府市	許可年月日	2019・4・1	事業系ごみ	31
		有効年月日	2021・3・31		
産業廃棄物 収集運搬業	大分県	許可年月日	2019・1・12	燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・紙くず・廃プラスチック類・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラス・陶磁器くず・がれき類	04402013129
		有効年月日	2024・1・11		
	大分市	許可年月日	2019・1・22	燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず及び陶磁器くず・がれき類・紙くず	08810013129
		有効年月日	2024・1・11		
積替保管施設	大分市	許可年月日	2016・10・26	木くず・紙くず・廃プラスチック類・繊維くず・金属くず・がれき類・ガラス・陶磁器くず	08820013129
		有効年月日	2021・10・25		
産業廃棄物 収集運搬業	福岡県	許可年月日	2014・7・30	廃プラスチック類・金属くず・ガラスくず等・燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・がれき類	04000013129
		有効年月日	2019・7・29		
産業廃棄物 処分業 (選別) (圧縮) (破碎) (圧縮梱包)	大分市	許可年月日	2016・10・26	廃プラスチック類・金属くず・ガラス及び陶磁器くず	08820013129
		有効年月日	2021・10・25		

イ) 施設・設備等の状況

・ 運搬車両の種類と台数

許可車両	車 種	台数
運搬車両 合計22台	4 t 脱着装置付コンテナ車	1台
	3 t ユニックダンプ車	1台
	4 t 深ダンプ車	1台
	4 t 塵芥車 (回転式)	3台
	4 t 塵芥車 (プレス式)	2台
	3 t 塵芥車 (回転式)	11台
	4 t バキューム車	1台
	トラック (キャブオーバー)	1台
	軽トラック	1台
	バックフォー	1台
その他車両	軽自動車 (営業車)	1台
	普通自動車 (営業車)	1台

・積替保管施設の面積と保管上限量

所在地 大分県大分市大字賀来中尾9番1

面積 74.83㎡

容積 84.37㎡

産業廃棄物の種類 木くず、紙くず、金属くず、廃プラスチック類、繊維くず
がれき類、ガラスくず及び陶磁器くず
(以上7種類。ただし、石綿含有産業廃棄物を除く)

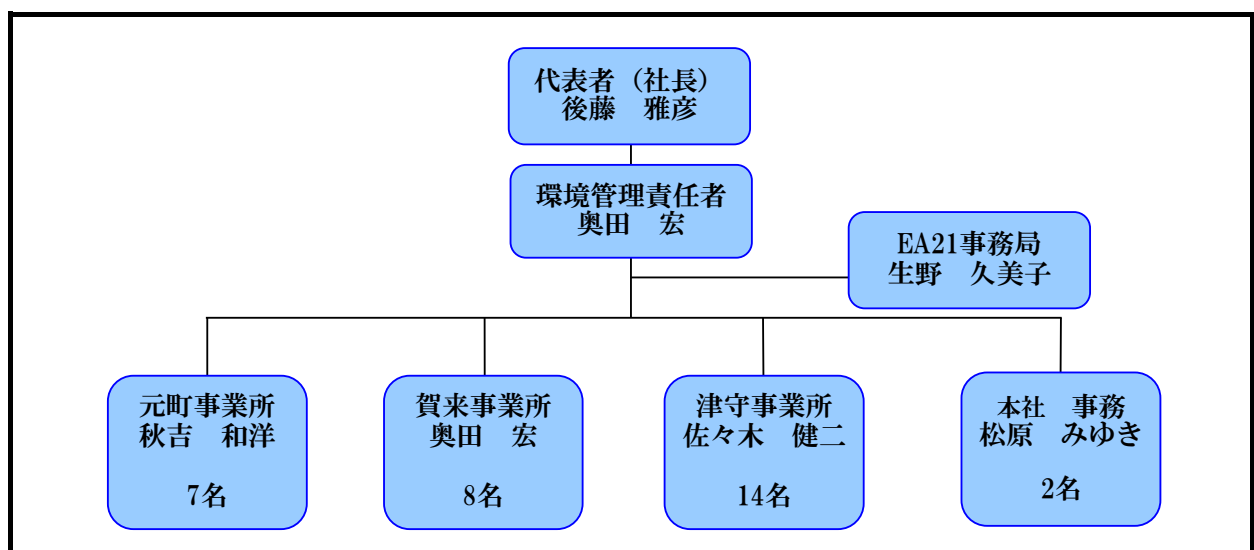
・処分施設の種類の

施設の 種類	設置場所	設置年月日	処理能力	廃棄物の種類	処理方式
選別施設	賀来事業所	2006・9・4	3.38 t /日 (8H/日)	・廃プラスチック類 ・金属くず ・ガラスくず及び 陶磁器くず	選別
圧縮施設	賀来事業所	2006・9・4	2.08 t /日 (8H/日)	・廃プラスチック類 ・金属くず ・ガラスくず及び 陶磁器くず	圧縮
破碎施設	津守事業所	2007・1・25	2.4 t /日 (8H/日)	・廃プラスチック類 ・ガラスくず及び 陶磁器くず	破碎
圧縮梱包 施設	賀来事業所	2016・3・24	3.96 t /日 (8H/日)	・廃プラスチック類 ・金属くず	圧縮梱包

ウ) 処理実績

・別紙資料参照 5ページ

エ) 推進組織図



廃棄物処分実績

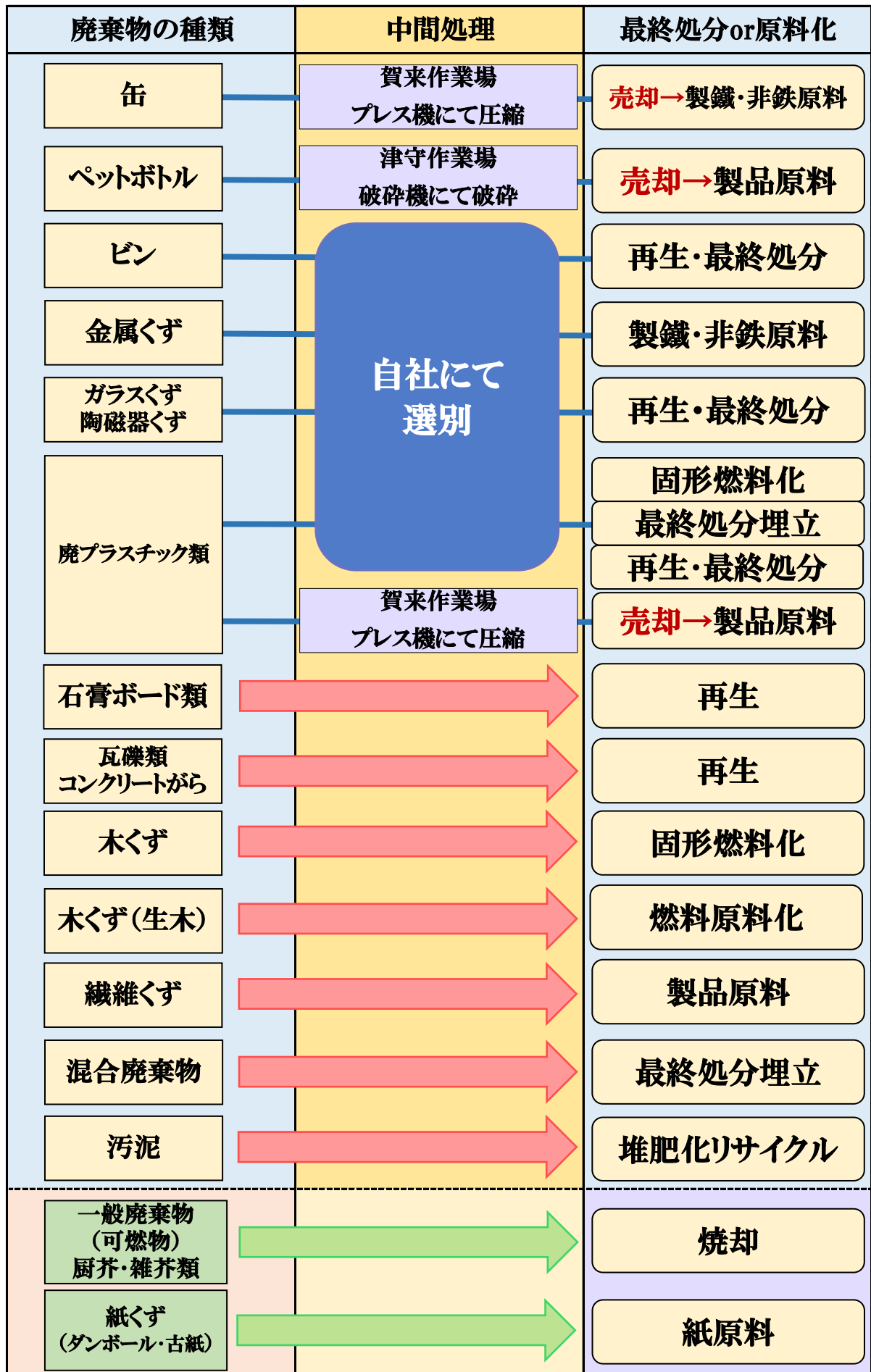
産業廃棄物（単位：トン）

処分方法等	廃棄物等種類	処分方法	処理量 t (2017年度)
収集運搬	汚泥		63.10
	廃プラスチック類		432.95
	木くず		265.32
	金属くず		373.89
	ガラスくず及び陶磁器くず		72.31
	がれき類		66.90
	混合廃棄物		2.26
	水銀使用製品		16.54
収集運搬量合計			1,293.28
中間処理	廃プラスチック類	選別	102.61
	金属くず	選別・圧縮	80.91
	ガラスくず及び陶磁器くず	選別	120.48
中間処理小計			303.99
内資源化	廃プラスチック類	選別・破碎後圧縮固化	56.72
	廃プラスチック類	破碎後原料化	13.80
	廃プラスチック類	選別後原料として再利用	4.66
	金属くず	選別・破碎原料化	67.11
	金属くず	選別・圧縮後原料化	13.80
	ガラスくず及び陶磁器くず	破碎・再生	12.12
再資源化等量小計			168.21
中間処理後の 産業廃棄物	廃プラスチック類	埋立（委託）	27.43
	ガラスくず及び陶磁器くず	埋立（委託）	108.36
最終処分量合計			135.79

一般廃棄物（単位：トン）

処分方法等	廃棄物等種類	処分方法	処理量 t (2017年度)
収集運搬	可燃ごみ	焼却（熱回収）	9,044.70
	ダンボール・古紙類	原料として再利用	283.73
	金属くず	原料として再利用	1,251.34
収集運搬量合計			10,579.77

処理先フロー



3. 主要な環境活動計画の内容

	項 目	責 任 者		
		賀来事業所	元町事業所	津守事業所
1.	二酸化炭素排出量の削減			
	①電気使用量の削減			
	・未使用区域の電気消灯の徹底で従業員の意識向上	生野	堤	平川
	・電気器具、換気扇等の不使用時停止	生野	堤	平川
	・室内温度状況に見合った冷暖房器具の使用	生野	堤	平川
	②燃料使用量の削減			
	・社員へのエコドライブの啓発活動 定期	山崎・川上	秋吉	尾崎
	・配車の検討、ルート収集検討 必要時	奥田	秋吉	尾崎
	・車両の燃料使用量のチェックと、走行メーターチェック 毎月	山崎	秋吉	尾崎
	・燃料使用量削減目標管理表の管理	奥田	秋吉	尾崎
2.	廃棄物の分別徹底による再資源化率の向上			
	・リサイクル率の把握・毎月の処理状況をチェック 毎月	奥田		
	・収集ルート時の分別回収の取組・お客様への提案	山崎・川上		
	・事務所より出される廃棄物の分別徹底 定期	生野	工藤	小野
	・裏紙の有効活用～裏紙の確保	生野・松原	秋吉	尾崎
	・場内片付け廃棄物の管理、社員への選別の啓発活動 定期	小島	工藤	三浦
	・廃プラ・金属・雑品・コンテナの管理	山崎・川上		
3.	水資源使用量の削減			
	・車両の洗車記録の確認、点検表の啓発 定期	朝久野	堤	工藤
	・洗車時間の短縮・水使用量削減の啓発活動 定期	朝久野	堤	工藤
	・水漏れ防止点検 定期	川上	堤	工藤
	・雨水の有効活用と、雨水貯留タンクの管理 定期	川上		
	・洗車排水槽定期清掃 定期	朝久野		尾崎
4.	グリーン購入			
	・エコマーク商品の購入	生野	秋吉	尾崎
	・詰替商品の購入	生野	秋吉	尾崎
5.	環境教育の取組み			
	・従業員への社内教育の実施 年2回（2・9月）	奥田		佐々木
	・環境美化活動毎月スケジュール等段取り 毎月	麻生	堤・工藤	尾崎・小野
	・近隣地域のごみ拾い活動 作業段取りと道具準備 毎月1回	麻生	堤・工藤	工藤
	・環境美化草刈活動 作業段取りと道具準備 年3回（5・7・9月）	麻生	堤・工藤	小野
	・事業所場内の美化、5S活動 定期	小島・麻生	秋吉・堤	大石
	・事務所周りの清掃（トイレ含む）、環境美化の取組み	小島・川上		大石
	・エコアクションタイムの実施（週1回）	小島・麻生	秋吉	尾崎・小野

4-1. 環境活動の目標と取組結果

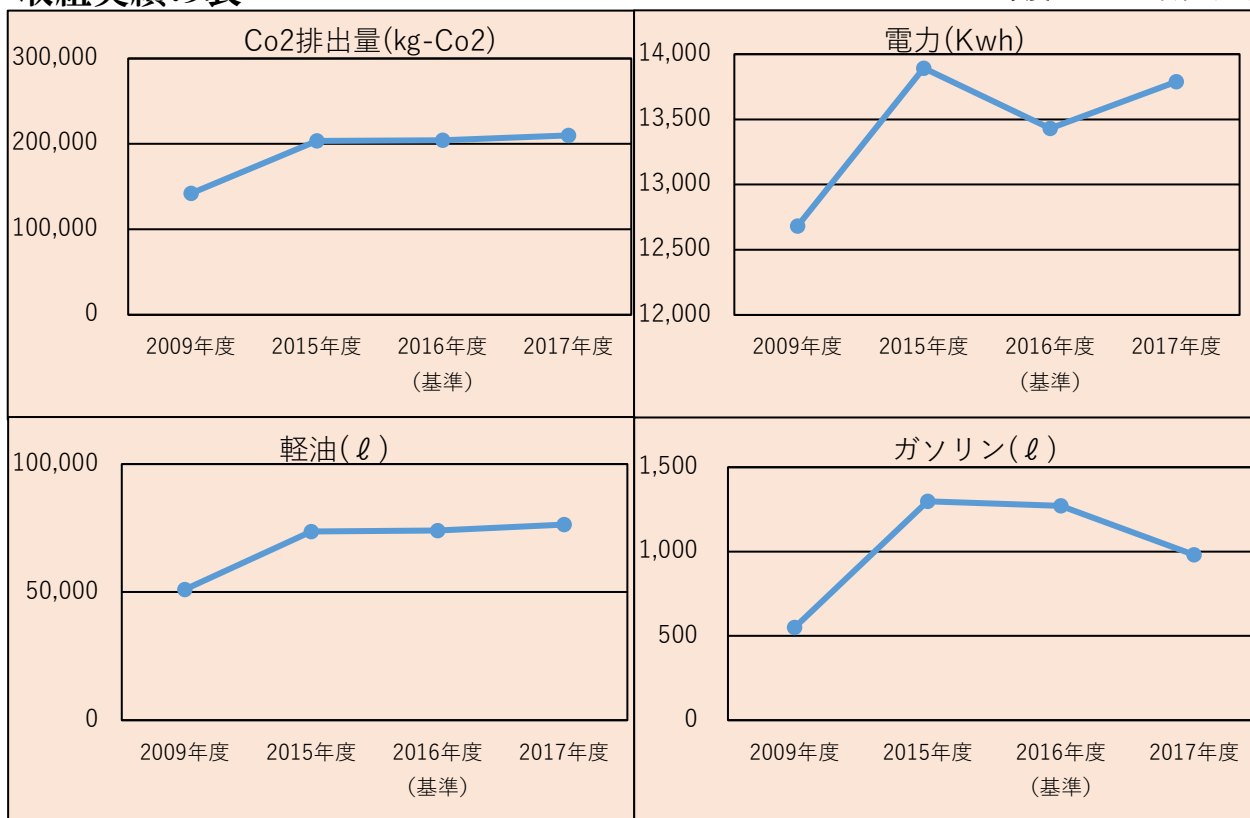
目標と取組み結果			2009年度 (EA-21取組み時)	2015年度	2016年	2017年	2018年度
収集運搬量(t)			3,734.4	11,653.3	12,100.3	12,273.7	
Co2	目標	Co2排出量(Co2-kg)	167,561	207,520	202,990	209,504	209,973
	実績	Co2排出量(Co2-kg)	141,390	203,021	203,648	209,371	
		収集運搬量に対する排出量(Co2/t)	37.862	17.422	16.830	17.059	
電力	目標	電力使用量 (kwh)	14,955.0	12,110.2	13,602.5	13,313.5	13,871
		Co2排出量(Co2-kg)	7,223	5,849	6,570	6,430	6,700
	実績	実績 (k w h)	12,681.0	13,893.3	13,429.7	13,790.1	
		収集運搬量に対する使用量(kwh/t)	3.396	1.192	1.110	1.124	
軽油	目標	軽油使用量(ℓ)	60,201.0	75,059.2	73,277.8	76,257.5	76,333
		Co2排出量(kg-Co2)	157,988	196,981	192,306	200,126	200,324
	実績	実績 (ℓ)	51,056.6	73,655.7	74,003.9	76,374.6	
		収集運搬量に対する使用量(ℓ /t)	13.672	6.321	6.116	6.223	
ガソリン	目標	ガソリン使用量(ℓ)	1,012.0	2,020.0	1,772.0	1,270.0	1,270
		Co2排出量(kg-Co2)	2,350	4,690	4,114	2,949	2,949
	実績	実績 (ℓ)	549.1	1,297.91	1,270.91	981.00	
		収集運搬量に対する使用量(ℓ /t)	0.147	0.111	0.105	0.080	
最終処分量 (リサイクル率)			47.90t	49.98%	85.14%	85.71%	85.71%
水資源	本社	水使用量(ℓ)	節水の心がけ	節水の心がけ	節水の心がけ	節水の心がけ	節水の心がけ
	目標 (賛来)	水使用量(ℓ)	217.80	111.00	127.00	116.00	122.00
	目標 (元町)	水使用量(ℓ)		10.96	6.60	6.50	6.00
	目標 (津守)	水使用量(ℓ)		洗車時間の 短縮	洗車時間の 短縮	洗車時間の 短縮	洗車時間の 短縮
	実績 (m³)		169.5	134.0	138.0	114.8	
	収集運搬量に対する使用量(m³/t)		0.045	0.011	0.011	0.009	
グ リ ー ン 購 入				44個/年	44個/年	44個/年	44個/年
収 集 運 搬 総 量 (t)			3,734.39	11,653.30	12,100.30	12,273.65	

係数0.483 2016年度

4-2. 環境活動の取組結果

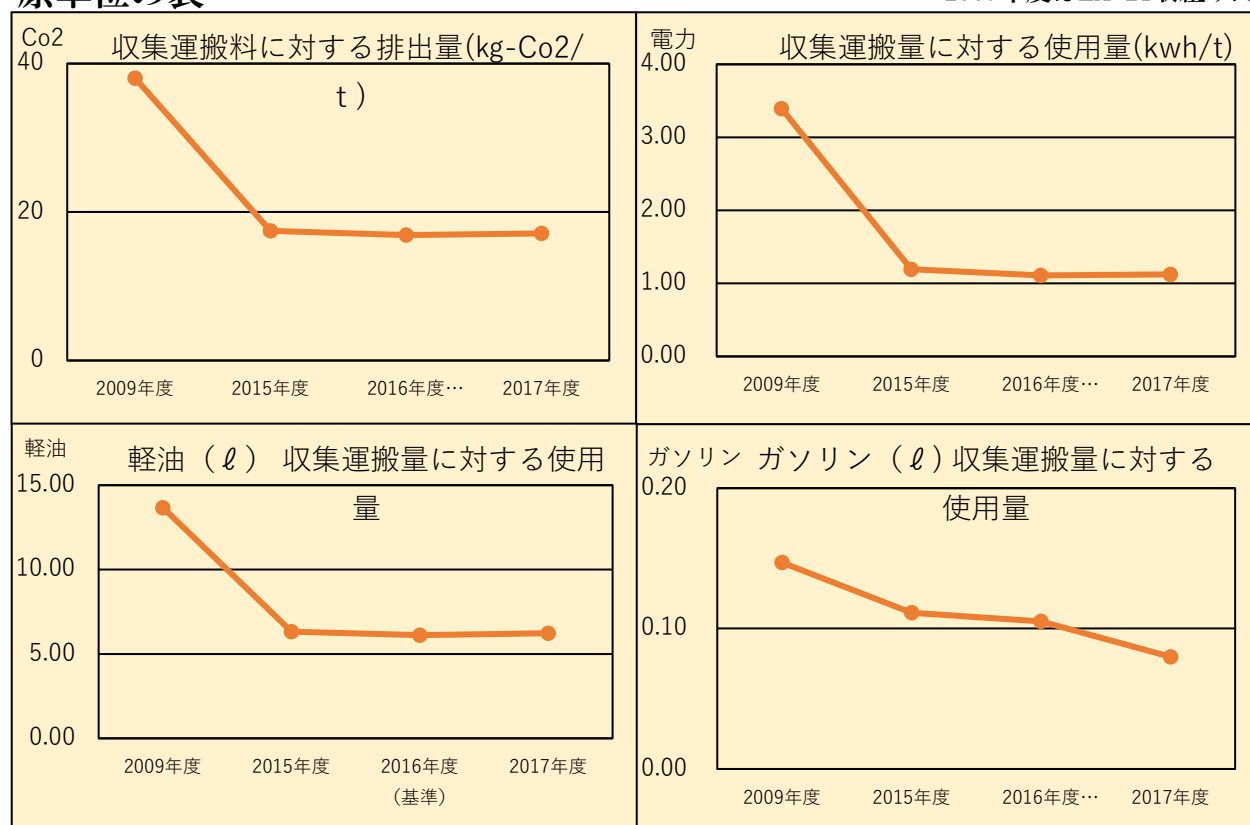
取組実績の表

2009年度はEA-21取組み時



原単位の表

2009年度はEA-21取組み時



環境教育の様子1

津守事業所で、2017年11月に「安全管理、安全運転、水銀使用製品産業廃棄物の取扱い」の3つのテーマで教育を行いました。特に水銀使用製品に関しては時間を十分にとり説明を行いました。賀来事業所の方は、2018年7月に「熱中症対策、廃プラの処分先受け入れ基準の確認」の2つのテーマで教育を行いました。特に熱中症対策に関しては、人命に関わる場合がある為、緊急事態対応手順まで確認をしました。

①②は津守事業所の教育写真 ③～⑥は賀来事業所の教育写真



①安全管理、安全運転についての説明



②水銀使用製品産業廃棄物の説明後の質疑応答



③熱中症対策についての説明



④緊急手順を確認中。



⑤廃プラの教育中。受け入れ基準が多くあるので覚えるのも大変です。



⑥説明を受けた内容で、適正に処理を行います。

環境教育の様子 2

2018年9月に「潜む危険を予測・回避せよ!」「死角に潜む危険」の2本のDVD教育を行いました。日々、収集車輛を使用しての運転業務なので、今回の教育で、安全への意識持ち向上、安全力の向上に繋がったと思います。



①2本DVDを借りて安全への教育



②危険に対してのDVDを確認中



③資料を使用しての説明



④津守事業所でも同内容で教育



⑤皆真剣にDVDを見ています



⑥安全に対してのレベルUPに繋がりました

環境への取り組みの様子

毎月行っている近隣地域のゴミ拾い活動。今年度は多忙を極め、中々活動が出来ませんでしたが、時間の取れる時は、地域の美化に貢献出来るよう、真剣に活動を行いました。草刈活動も夏場になる前に活動を行いました。今後も地域の美化に貢献していきます。



①近隣地域の美化活動



②小さい物も見落とす事なく拾います



③掃き掃除も忘れる事なく



④色々な物が捨てられています



⑤夏前とはいえ、炎天下での活動でした



⑥日頃使用させて頂いている場所も刈りました

5. 環境活動の取組み結果の評価及び次年度の取組み内容

1. 二酸化炭素排出量

	排出量	1.電気使用量	2.ガソリン使用量	3.軽油使用量
基準値 (2016年度)	203,648kg-Co2	13,429.7kwh	1,270.9kwh	74,003.9kwh
目標値	209,504kg-Co2	13,313.5kwh	1,270.0kwh	76,257.5kwh
実績	209,371kg-Co2	13,790.1kwh	981.0kwh	76,374.6kwh
達成率	100.06%	96.42%	122.76%	99.85%

1.電気使用量

年間を通して目標をクリア出来なかった。事業所別では、賀来事業所のみクリア出来なかった。年間を通して使用量が増加した。冬場は例年に無い寒さが続き、事務所内で使用しているストーブだけでは暖が取れず、エアコンを併用して使用した為、増加となった。夏場は、熱中症対策として冷風扇を新たに導入。ミスト扇風機と併用して使用した為増加となった。事務所内のエアコン使用増も要因で、クリア出来なかった。夏場は設定温度を上げ、扇風機を活用、冬場は石油ストーブを活用するなど、前年同様に工夫をしたがクリア出来なかった。次年度はこの反省点も踏まえ、実績を基に、目標設定決めればと思う。元町事業所は前年同様、使用頻度の少ない電化製品の待機電力をカットするなど工夫し、節電に努めクリアする事が出来た。津守事業所は、月目標をクリア出来ない月もあったが、破碎機の刃の交換を行い動力の削減に努め、目標をクリア出来た。

2.3.ガソリン・軽油使用量

ガソリンはクリア出来たが、軽油は賀来事業所のみクリア出来なかった。夏場の猛暑の影響によるエアコン使用増、遠方への廃棄物の回収、人手不足の影響もあり、目の前の業務をこなすことで精一杯で、クリア出来る取組みが思うように出来なかったのが要因。次年度は目標をクリア出来るよう、担当者間での削減意識の共有等、個人個人が再度PDCAをしっかりと行い、目標をクリア出来るよう、努めて行きたい。

2. 廃棄物の再資源化

	再資源化率	昨年度は一般廃棄物もリサイクル率の対象としていたが、今年度より一般廃棄物は除外し、産業廃棄物のみのリサイクル率で取り組んだ。基準値と目標・実績値に大きく差があるのはその為である。月のリサイクル品目、処分状況に大きく左右されたが、年間目標をクリアする事が出来た。個人個人が適正分別の意識を持って日々臨めば、目標をクリア出来るので、次年度も意識して片付けていてもらいたい。
基準値	85.71%	
目標値	85.71%	
実績	83.92%	
達成率	97.91%	

3. 水使用量の削減

	水使用量	年間を通してクリア出来た。夏場の熱中症対策で冷風扇を導入。ミスト扇風機同様に上水を多く使用するのが分かっていたので、他の使用を削減する事に努めた。前年同様、トイレの節水コマは有効だった。洗濯の回数もまとめて洗うなどし、節水に努めた。結果、賀来事業所は夏場は使用増となったが、他の月で大きく削減が出来たので、年間のクリアに繋がった。元町事業所は水の使用が極端に少ないので年間を通して、十分な削減が出来た。
基準値	138.0ℓ	
目標値	122.5ℓ	
実績	114.8ℓ	
達成率	106.29%	

4. グリーン購入

	購入数	年間目標をクリア出来た。購入品目もグリーンマークの物を購入するなどし、より環境に優しい物の購入に努めた。次年度も購入品目を見直しつつ、環境に優しい物を購入して行きたい。
基準値	58個	
目標値	43個	
実績	69個	
達成率	160.47%	

5. 環境教育の取組み

5.1 ①賀来事業所での場内安全管理 ②安全運転・エコドライブ有効性 ③水銀使用製品産業廃棄物の取扱いについて

①場内での作業は、常に多種多様な廃棄物を取扱う業務を行っているので、中には、危険な物もあり、常に危険や災害防止への意識持ちの大切さと、作業を行う時は常に自分自身の仕事の役割と責任を持って行う様に説明を行った。

②安全運転については、特に危険な場面の予測と対処方法の指導を行い、防護運転の重要性について説明を行う。エコドライブの大切さと安全運転をする上でのエコドライブの必要性の説明を行った。

③廃掃法（廃棄物処理と清掃にかかる法律 略 産業廃棄物処理法）が改正され、改めて水銀使用製品の取り扱い・管理を十分に行っていくよう説明を行った。

の3項目で教育を行いました。安全への意識持ち、廃棄物の取扱いに対しての意識向上に繋がりました。

5.2 熱中症にならない為の対応

夏場の作業は炎天下のなかで行うので、熱中症になりやすい。熱中症になってからでは遅いので、緊急事態対応手順も踏まえ教育を行った。

又、熱中症対策として使用する道具も確認を行い、前年同様、リフレッシュ休憩を作業の間に取ることも伝えた。

熱中症の危険性が理解出来、勉強会後は皆が率先して熱中症対策を行うようになった。

5.3 廃プラスチック類の処分先の受け入れ基準の確認

廃プラスチックには様々な種類がある。処分先の受け入れ基準も変更される為、処分先からの資料を基に説明を行い、理解を深めた。

結果として、廃プラスチック類の分別の仕方が徹底出来、作業時に迷うことなく作業が出来るようになった。

5. 環境教育の取組み

5.4 安全運転にかかる DVD教育

DVDの事故事例を見て学習し、安全への意識持ち向上と、安全力の向上に繋げて。業務の中で生かしてもらおう。

1. 潜む危険を予測・回避せよ！～ある会社員の交通事故

2. 死角に潜む危険～事故事例に学ぶ危険予測・危険回避

の2項目でDVD教育を行いました。事故を起こさないためには、交通ルールを守るだけではなく、危険を事前に予測出来るかが重要になり、又、運転手から見えない様々な死角が事故を誘発するという事が、認識出来ました。

5.5 美化活動

ゴミ拾い活動は、業務多忙・雨天による延期等、活動出来ない月もあったが、前年と同じく、3事業所共、ボランティア団体として近隣地域の環境美化に貢献出来たと思う。

ボランティア団体として活動を行っている為か、活動中は例年以上に真剣に活動が出来、思わぬ効果もあった。

草刈活動は多忙な中ではあったが、近隣地域の草刈まで行えた。

美化活動中に声を掛けて頂き、より良い活動が出来ていると思える。

6. 代表者による全体の評価と見直し結果

2017年度の取組みですが、皆さん、大変お疲れ様でした。結果としては、事業所間で結果が大きく異なりました。2017年度は、特に人手不足の影響が深刻を極め、本業の業務に関しても、例年になく多忙な1年であり、ゆとりの無い厳しい状況が続きました。振り返ると、様々な要因があり、例年のような、中身の濃い取組みが思うように出来なかった事は、否めませんが、その中でも、燃料、電気、水使用量の取組みで、設定した目標をクリア出来た事は、素晴らしいものがあります。

取組みにおけるマンネリの打破と、今まで培ってきた事はそのままに、そして、簡素化出来るところは検討し、無理の無い、効率の良い環境経営を進めていくべきと感じておりますので、環境管理責任者が中心となり、また新たなエコアクション21の取組みを構築して参りましょう。

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

「環境関連法規への違反・訴訟等はありません。尚、関係当局の違反・訴訟等の指摘は過去3年間ありません」